

I 蚕糸業の概況

1 養蚕業の動向

平成 16 年度における養蚕業は、養蚕従事者の高齢化及び後継者不足による労働力事情等により、飼育中止や掃き立て規模を縮小する農家が増加したことから、養蚕農家数、掃立卵量及び収繭量とも前年に比べて減少した。

- (1) 養蚕農家数は 1,850 戸で、前年に比べて 220 戸（11%）減少した。
- (2) 桑栽培面積は 3,442ha、桑使用面積は 1,776ha で、前年に比べてそれぞれ 398ha（10%）、154ha（8%）減少した。
- (3) 掃立卵量は 2 万 600 箱で、前年に比べて 2,731 箱（12%）減少した。
- (4) 箱当たり収繭量は 33.1 kg で、前年並みであった。
- (5) 収繭量は 683t で、前年に比べて 97 トン（12%）減少した。
- (6) 1 戸当たり掃立卵量は 11.2 箱、1 戸当たり収繭量は 369 kg で、ともに前年並みであった。

（資料「平成 16 年度蚕業に関する参考統計」生産局特産振興課調）

2 製糸業の動向

平成 16 年度における製糸業の動向は、原料繭の大幅な減少、生糸価格の低迷により製糸設備の運転率及び生糸生産量は前年に引き続き減少した。

- (1) 器械製糸工場数（16 年 12 月末の運転工場数）は、4 工場であるが、うち 2 工場については 17 年 2 月と 6 月にそれぞれ操業を停止する。
- (2) 製糸設備台（釜）数（16 年 12 月末）は 422 台、1 日平均運転台（釜）数は 265 台で、運転率は 62.8% となっており、前年に比べて製糸設備台（釜）数は 24 台（5.4%）減少、1 日平均運転台（釜）数は 5 台（1.9%）増加した。
- (3) 生糸生産量（16 生糸年度）は 3,868 俵で、前年に比べて 649 俵（14.4%）減少した。また、生糸の織度別割合は 18 中以下が 0.1%、21 中が 12.4%、27 中が 47.7%、31 中が 23.7%、その他が 16.1% となった。
- (4) 製糸工場の原料繭需給（16 生糸年度）は、受入数量が 1,056 トンと前年比 28.5% 減少し、消費数量が 1,280 トンと前年比 17.6% 減少した結果、期末在庫数量は 224 トンと前年比 50% の減少となった。

3 生糸の国内需給及び価格の動向

16 生糸年度の生糸需給についてみると、生産は 3,868 俵と前年比 14.4% 減少し、輸入は 20,154 俵で前年比 33.7% 減少した。この結果、期末在庫は 7,274 俵と前年比 33.4% の減少となった。内訳は、一般在庫が前年比 20.6% 減の 7,274 俵、機構保有生糸については輸出向け特別売渡事業や新規用途生糸売渡事業により 12,591 俵の売渡しを実施した結果、在庫は無くなった。また、生糸の国内引渡数量は 27,002 俵と前年比 19.0% の減少を示した。

なお、16 生糸年度の機構における外国産生糸の買入れ及び売戻しは、17 年 1 月以降に絹糸・絹織物の輸入が自由化した影響を受け、17,173 俵（実需者輸入分 17,173 俵、一般者輸入分なし）と前年に比べて 56.5% の減少となった。

国産生糸の市場価格は、主産国での生産状況・海外市況、仕手筋の介入等により乱高下を繰り返してきたが、長期的に見れば、需要の減少や輸入品との品質格差が

縮まっていること等から、低下傾向が続き、一時、中国の生産及び日本向け輸出価格の動向から16年12月と17年2月には、2,900円前後まで上昇したが、概ね2,000円から2,500円台で推移した。